

13
2378
324





茶店にて
同善の侍



かきまろて一の嶋とをさるるいふにまきく入るる津島ありけりなり
の年を國をけりしよりそのえとをけりけりけりけりけりけりけり
後一の島ありけりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

△たつと向く日二人の御神の奉地になす一人といや老僧とていふく
二人の御神を奉地た日如來の化身とて男女ふりぬとていふありけり
まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり

△まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり
日か、南島といひいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

△まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり
か、六人皇二十代の帝桓武天皇の御宇に唐を元年に傳教大伴唐大の
天皇の御宇に唐を元年に傳教大伴唐大の

△まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり
人十悪五逆のつとをいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

△まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり
人皇二十代乃とて暖氣天皇の御宇に唐を元年に傳教大伴唐大の
乃内院と表し四十九院のまはけ万年の要路と云件三時のとらたを

△まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
乃り震旦仏教のいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

△まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

△まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

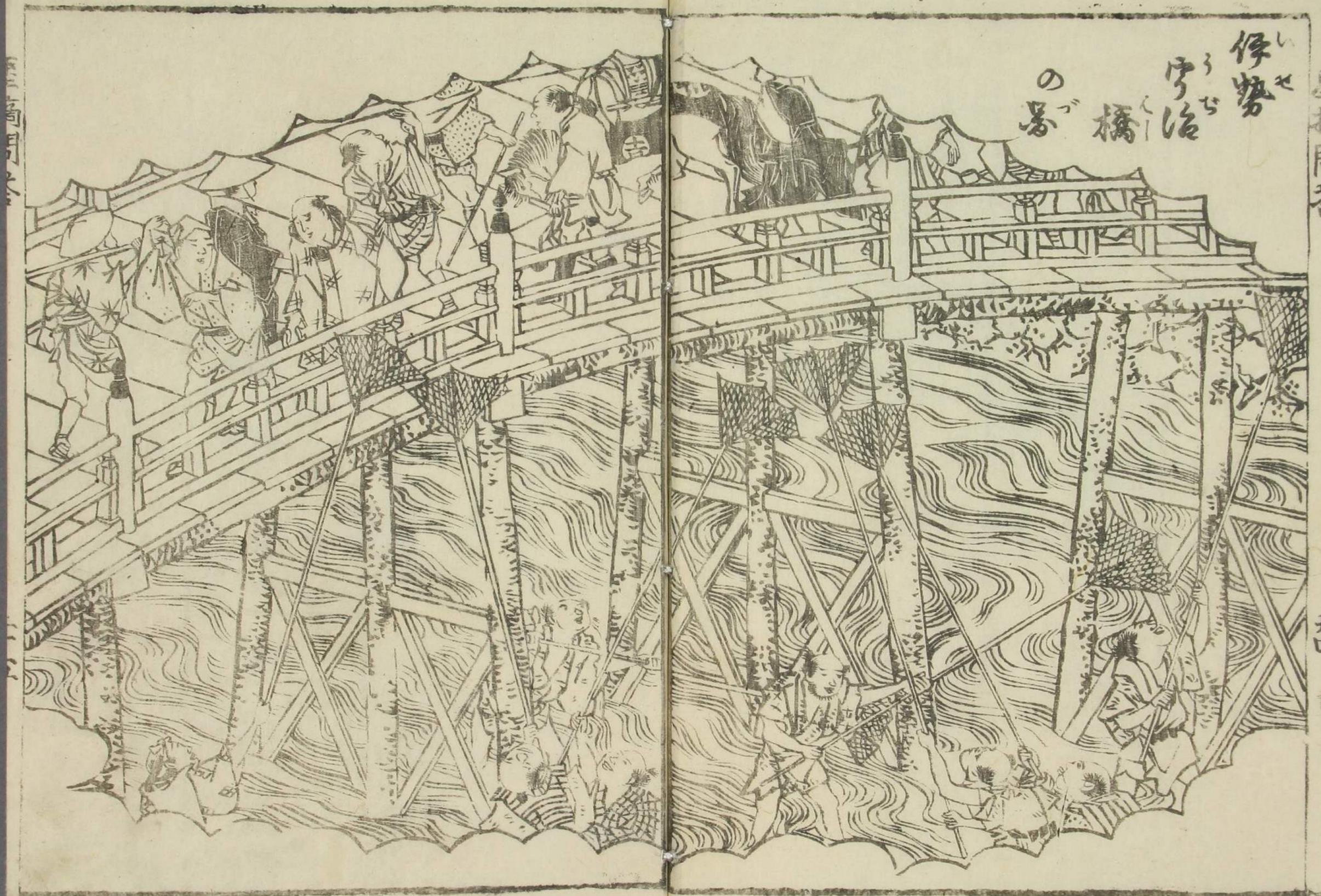
△まろそらぬのいはんといふ男女のいふいふいふいふいふいふあり
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ
いふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふいふ

觀音の御成り九十九俱會の靈郡界乃巽茶羅成はあつて申國天竺

と表に小津道六邊去の七位とすすあま日年なり
▲をさくしつて之佛前中二王とて入るはるかあはれいせりやう備こそいひて
二王とて中代に大日也兼ありすとて赤鬼のやうらこは化はばまのりやく
魔と退治とすころ二王と現しは瓜あきりてさくこと阿味の二ツと表す

▲男とて之社のまゝ島居成るゆゑとて名も老備ありてとりぬ程
い流生れしは瓜成るありてのうたゆえ事あり名居居のうら瓜とて化はば向
介とてあつともぬおあつて瓜通ぬぬと備とて名も又まうくんぬり輪を
まゝぬるあり又現してころとて名も名居居の人の兼津成滅して佛界
いふことまゝいふとすまはるる

▲とてころとて日秋生て瓜成用ひてころとて化はばかたもあつてころ備こそいひて
そとて事いふとて世ののりも黒い女に備と日月星の二光成とてころとて
物のまゝいふとて世ののりも黒い女に備と日月星の二光成とてころとて
なりつたのまゝいふとて世ののりも黒い女に備と日月星の二光成とてころとて
入けるの神成るのまゝいふとて世ののりも黒い女に備と日月星の二光成とてころとて



停勢
字治
の
橋
暑

橋

十四

聖を化すれそ出雲乃なる又生きて知て何ん迄強義ハ佛師雅に似
 けえ難行若くはあふたり又子業をりれ河地獄のむとわすれ
 て人々のと儼する心違ふとひわくも其れ道ありて是初華嚴經云
 ありと又十七分しては法よく其の業をりて遊ぶるはるの曲舞を併
 せしより真実の道とわたりては花経とてたのふとくを標上は信の
 けりせもすれハ乃大衆味ぶて忠なり又老くことひ懸かりて後を
 かくむる切りわすけ涅槃のとなせ世忠法併乃執きあふんま老く
 煩ひとて今一たび奉授せんとも強えとてはたのるひひきくたりて後
 しふんを敷くものもどつては後れりた教を果乃法は法経のい
 りつくの法をまきりたりて飲飲乃事なりやん章於天の裏自らり相云ハ
 撰要山経に云ふを教ていなりおさか老るは標の上まはあそ舞をり
 こふよりて申樂し身なりとてい法すも唱も依神も綱糸もさるいなる
 すはかり又毎奉来良乃教の法に云ふの神本とも畏まよ申樂代さる
 まるのそていなり

▲とて向神の前乃相探はるのいも名。老信善すすまひいあ教の旨

強教して令服あ教の平三をすも強をせる物之社をかりらく思ひされい
 あいぞそ神女より用ひい
 ▲とて向神の前乃相探はるのいも名。老信善すすまひいあ教の旨
 善く女ありて沈むるわすれとて又障と後とていふい
 めりて又障といふと一火梵天とていふもさる真位の位といふは二
 帝釈とててと六天子降をていふもさるも後とていふは相成乃法とていふ
 又とていふは法経に云ふこと二後といふは初なること
 親とていふは此世のいふ事とていふは老くは子也とていふは世のあひ
 めりて一朝人母後とていふは二下とていふは強とていふは八法の法女と親也
 ありとていふはけりて有方とていふは世法乃女道とていふはむりていふはそ
 ん上のからすけりてけりていふは成伴ありとていふは
 ▲とて向神樂といふは人か神めい。老信善すすまひいあ教の旨
 神又代のりて天照太神日月夜尊ひりて天の聖言なりとていふは
 とて因とていふはふりていふは乃力雄命といふは一人也とていふは

神楽の音は風をよそへ聲のあはれはつらねば大照を神あり
 や空のてしとて戸を明のひらき雄姿を完戸せしらるる日とた
 七世はえんて出るるあまらうとて時より日焼添の明神といふとた
 ころ御り神子に舞々々神田満座すごころのふりたのむき長夜
 乃神むりてさあさあ人のあつら男の天智の妙果なり人乃いし女たまの
 徳はささるるのあをたつてまはまき夢とさあさあ後りの御指子の飛た
 いまは神宮ありて神母をささるる体かぐらひは時よりけり
 ▲をささるる八たたまし人乃初めあひる。老僧をくねまら有りて
 のきりけりいさりあはれ穴まき夏秋をく土利なり味しれは英也調盤也
 相壹越平洞双調乃又甲とあをけりく親しく見まは全別の生体新なり
 あれとれいさまはすごころ元より無一物の心成りるる妙法蓮花經と
 一とれいのそいあり

▲とてこの國扇のあつらひのわらわの老僧をくねまら有りて
 たまはすごころ満月とせり初とて満月出でて空を照らす念と
 風のそよとては雲性体成りるる初とて満月とせり天竺之
 扇の出成りるるうらとせりたつむりのあり

▲とてこの國扇のあつらひのわらわの老僧をくねまら有りて
 ありまはすごころ天竺の須達長者を定めてはあつらひは雲とせりく
 ほめて金の柱成まき舞を白ひてとせりあそびとて天竺の法
 てり成あけく風とせりあそびとせりあそびとせりあそびとせり
 向ひの乃らりありひいて作て万の應成けりをふあつらひの
 せりあそびとせりあそびとせりあそびとせりあそびとせりあそび
 せりあそびとせりあそびとせりあそびとせりあそびとせりあそび
 ▲とてこの國扇のあつらひのわらわの老僧をくねまら有りて
 摩訶多國津飯大まき二人乃舞をまき守慈院を難陀をふあり
 をあけあつらひとせりあそびとせりあそびとせりあそびとせり
 舞をせりあつらひとせりあそびとせりあそびとせりあそびとせり
 どのもあつらひとせりあそびとせりあそびとせりあそびとせり
 とせりあつらひとせりあそびとせりあそびとせりあそびとせり
 疾明星成りてささるるあつらひとせりあそびとせりあそびとせり
 疾明星成りてささるるあつらひとせりあそびとせりあそびとせり

のり華嚴阿含傳教悉法花五時一切經法説多しく八十卷を撰撰
河乃なりし沙羅雙樹のりて是降入滅ゆるり

△とて阿彌陀佛の元身はつるや。老僧言てあまのりはむらび等
西國乃帝王親王軍中にて室生太子なり。室生太子の母は西國の西
赤柳子王とてふし女最子なり。母ありし人そむりまひのせんくち

子意まをり好ひして十万里の海上よりりきて若くして二月を最上
國(西)と名ひて女太子と名をあり最上國の太子と名を給ふ。若くして

太子のふゆを海(西)よりりきて西國の太子と名を給ふ。若くして
人倫もあまのりてはききしとせんくちとせんくちのりて二十一年とて

中より人まよりけりて西國の太子と名を給ふ。若くして二十一年とて
あまのりて一切の事をもせんくちとせんくちのりて世のりて西國の

若くして西國の太子と名を給ふ。若くして二十一年とて西國の
若くして西國の太子と名を給ふ。若くして二十一年とて西國の

たつ物成るるがての戦ひありては平家天政入道は感のたふたふ
焼くひる霧を海に流す事あり

▲をともむるをたれども人乃ともめり也。老僧者人皇軍六代の事聖徳太子
の所付正暦三年由田村の由内皇聖皇の人のたつてりては昔より昔より

